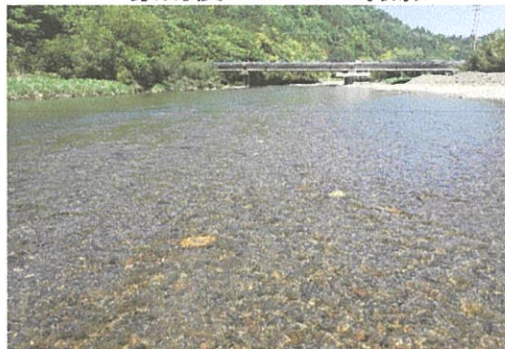
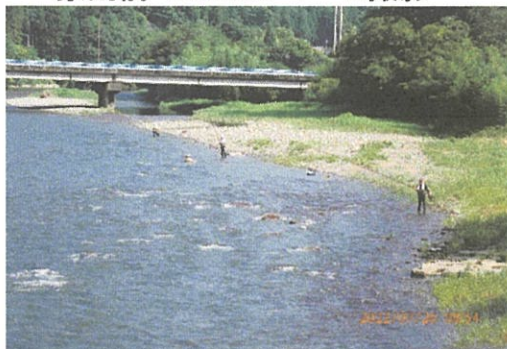


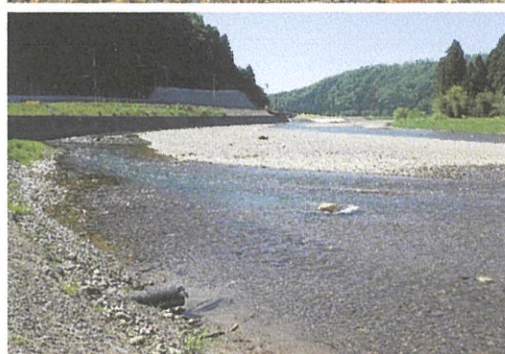
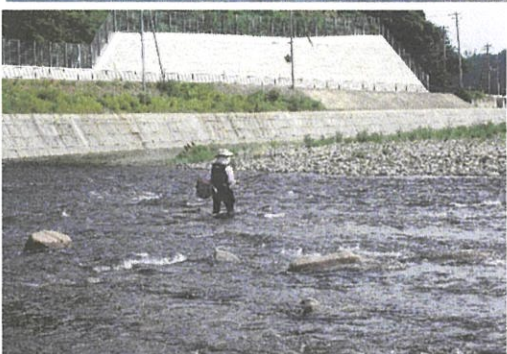
豪雨前 2022/7~8撮影

豪雨後2024/5撮影

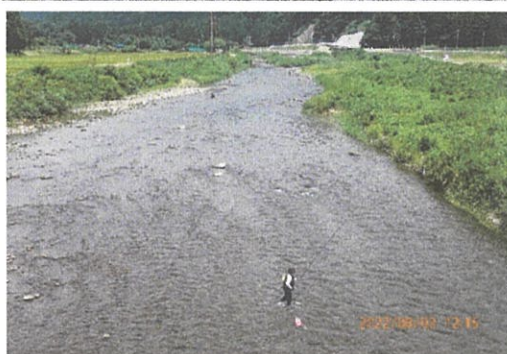
新川合橋
下流



漁協事務
所付近



古橋堰堤
(砂防堤)
下流



高時川大
橋付近



高時川大
橋下流



豪雨前までは、アユの餌となるケイ藻類等が付着する石も適量にあり、瀬が何力所かに見られ、好漁場の様相を呈していた。

豪雨後、川の様相は一変。大量の土砂が流入、堆積。河床の上昇、砂地化、平坦化が顕著。アユ漁場に必要の頭大程度の石がほとんど埋まり、瀬も消失。アユの生息環境、アユ漁場が大きく失われた。

1	スキー場跡地や上流の河岸等の浸食により発生した濁水の長期化には、高時川流域の地質がもろく風化しやすい泥岩質の土壌によるところが大きいことが分かっている。
2	今般、スキー場跡地を取り巻く県境の尾根に大規模な風力発電の事業が計画されているが、滋賀県側の山地一体は主に泥岩層からできている(下図)。尾根伝いに大きな土地改変が予定されている。(別添図参照、市役所を中心としたとき半径1.8kmのエリアに相当)。発電機までの最大高さ140mの風力発電機が滋賀県側だけで22基程度予定されている。
3	閉鎖から14年余を経過したスキー場跡地では、今なおあちこちで切り土面等がむき出しになっていたりと、崩落が起きている箇所も見られる。(グーグル空撮写真、下の写真2022. 9撮影)。このことは、絶えず風雨にさらされ表面の泥岩質土壌が浸食を受けていることの現れと言える。
4	また、このことは緑化対策が思うようには上手く進んでいないと思われる。
5	風力発電事業において泥岩質土壌の地表面が大きく削り取られることになり、長年地表が露出、むき出しの状態が続くことが予見される。一旦豪雨に見舞われると、アクセス道路及び発電機設置場所周辺等からの崩落や土砂流出、濁水の発生が強く懸念される。
6	よって、今回の高時川濁水問題検討会議で得られた知見を風力発電事業計画に活かすべきと考える。※環境アセスは、準備書に対する経産省大臣勧告(2023.5/19)を受けて、配置計画等の見直しを検討中。評価書の作成に向けて最終段階にさしかかっている。

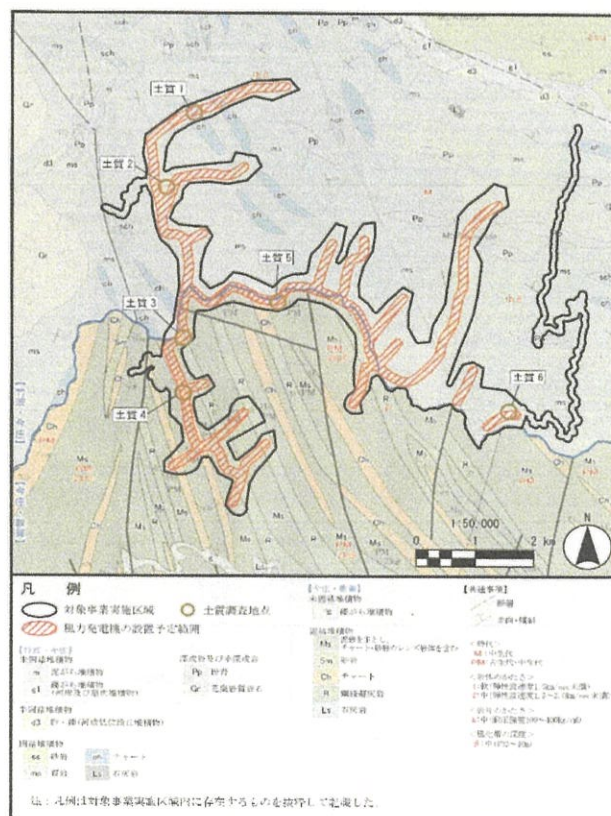
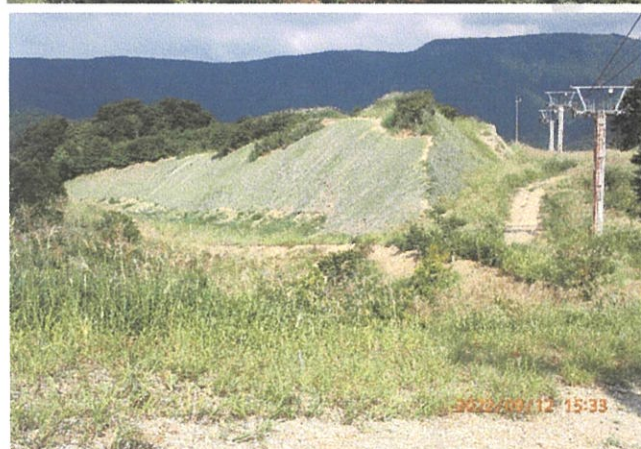


図 4.2-2(2) 水環境の調査位置(土質)



画像 ©2024 Airbus、CNES / Airbus、Maxar Technologies、地図データ ©2024 200 m

